

# 山行報告書

作成:2006年8月7日

愛知岳連 岡崎山岳会

山名[山域]	大無間山(2329m) [南アルプス]	目的[方法]	夏山を楽しむ
期間	2006年7月28日(金)~29日(土)	形態	避難小屋泊
参加人数	4人		

## 行動記録:

7/28(金) 晴れ

岩津市民センター(0555) == 豊田東IC == 牧の原IC(0720) = 田代P(0940,1025) -- 5:55-小無間小屋TS1(16:20)

7/29(土) 曇り

TS1(4:10) 小無間山 2149.6m(6:10 6:20) 大無間山 2329.3m(8:17 8:30) 小無間山(10:07 10:27)

TS1(12:05 昼食 12:45) -- 田代P(14:40) == 接阻温泉(15:20 16:18) == (食事) == 牧の原IC(18:40) == 豊田東IC(19:50) == 岩津市民センター(20:00)

## 概念図:



## 日誌:

大井川の上流、井川ダムの上に北、田代の駐車場は小綺麗なオートキャンプ場の道を挟んだ向かいにある。諏訪神社より入山し10分ほど登ると登山口があり入山の届をする。松林から緩やかな尾根を過ぎ2時間ほど歩く。最近の梅雨による山行の中止による登山体力の低下や久々の重装、さらにはうだるような暑さの中で一気に体力を奪われる。ほぼ30分ごとの休憩で水分を補給するも猛暑の中での急登山行で脱水症状気味。1時間ほど急斜面を登り、標高も高くなりようやく涼しくなって来た頃、小無間小屋到着。

小屋は恐ろしく汚いと聞いていたが床のベニヤなども新しくなっており快適。我々と埼玉からの4人グループの計8名での小屋泊まりであったが特に閉塞感はなし。小屋の手前の広場から東に富士山が見える。

翌日 3時前に起きて朝食を取り準備をするもなかなか明るくならず結局4:10に出発。荷物は小屋へデポ。鋸状の起伏の多い痩せ尾根からそれまで登った高度分(約100M)一気に急降下し鞍部より再び急登する。標高差60Mほどのアップダウンをさらに2回ほど繰り返し最後の急斜面を登ると小無間山に着く。山頂は小広場になっており展望は無し。ここからは緩やかな尾根沿いを2時間ほど歩くと大無間山山頂に到着。小無間山同様、樹林に囲まれた山頂でやはり展望は無いが、途中岩頭から南アルプスの稜線(池口山・光岳・聖岳など)が見える。帰りは往路を引き換えしTSでデポした荷物をUPして田代へ下山。

## 感想:

とにかく暑かった。特に初日は荷物が重い上に徐々に急斜面になっていく登りが体力を奪っていく。おかげで夜は足がつって悩まされた。水場が無いので水分補給にも気を使うが十分な水分補給が必要であることをあらためて実感した。2日目は個人的には体調も良く行程も厳しいものではなく順調な山行だった。いづれにせよ過酷な猛暑トレーニング以外の目的では真夏はあまりお勧めはしません。